

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500582
法人名	有限会社プレーメン
事業所名	ピア・ホーム「そよ風」
所在地	〒856-0023 長崎県大村市上諏訪町1231番地1号 (電話) 0957-50-1322

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	平成20年3月19日

【情報提供票より】(平成19年 12月 24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,900・24,900 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要(12月 24日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6歳	最低	67歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	与那城医院・平松整形外科医院・医療法人うえき心療内科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

スーパーや病院が立ち並び表通りから、すぐの小高い住宅地の中にある当ホームは、地域の利便性に加え、併設された施設が並び敷地は広く、見晴らしが良い恵まれた環境にある。運営者は保育士としての職歴、両親の介護を通じて障害者や高齢者の抱える問題を知り、人権に配慮された暮らしと、見守る周囲の理解と協力を理念に掲げ、地元である、この地に開設された。その思いは、ホーム内の随所に細やかに行き届いており、広々とした共有空間や居心地の良さとその人らしさに配慮された居室に活かされている。ソフト面でも、職員会議は時間をかけて入念に行い、積極的に他事業所との連携、交流の中で研修を重ね、サービスの向上に努めている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価について、改善計画シートは作成されていないが、理念の共有化、介護計画の見直し等改善に向けて実践に繋がる努力がなされている。運営推進会議の開催と家族に向けたホーム便りの発行も現在取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	併設ホームの評価による改善点を受けて、スタッフ全員による取り組みを迅速に実施した。その事によって、項目毎に職員の気づきの相違点の確認が出来、新たに評価の意義と活用に着目することが出来た。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容とそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	本年2月末までに、第1回の会議開催を目指し準備中である。会議参加メンバーとして家族代表、民生委員、市役所職員(長寿介護課)、自治会班長を予定で依頼している。今後は2ヶ月に1回の開催を目標にしており、より地域への理解を深め、サービスの質の向上に繋がるようにモニターの役目を担って頂き、会議に活かされていく事に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	重要事項説明書に苦情、相談窓口が明記されている。管理者は家族との信頼関係の構築に努め、面会訪問時の折には意見、要望を尋ね、伺うようにしている。遠方におられる等直接会う機会の少ない家族には、電話等で対応していたが、3月からのホーム便り発行により、ホームからの情報発信がなされる事で、家族の安心と理解がより得られ、その中で貴重な意見を頂く機会もある事などに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、子供会、老人会には可能な範囲内で、入居者は行事に参加し交流を楽しんでいる。地域の草取り等の作業には管理者と関連施設の障害者自立生活棟の入居者で参加したり、気軽に近隣の方の見学を受け入れる事などで理解を得て、地域に開かれたホームを目指し努めている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4項目の運営方針を理念として掲げている。人権への配慮と家庭的な支援に加え、密な医療連携を目指し、地域密着型サービスとして地域住民との交流を加えられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営方針を理念としてより分かりやすくする為、「安心して安全な生活と自律ある暮らしを守っていく」という文言にして日常の支援の中での共有化を図った。文言は玄関、台所の目に付きやすい場所に掲示され、毎月1回のスタッフ会議においても確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開所時には、地域の方にも見学して頂き、理解を得るようにした。現在も自治会に参加し、老人会、子供会の行事に参加したり、草取りや清掃作業には管理者や関連施設の自立生活棟の入居者が参加協力している。近隣の方も見学に訪れたり、折り紙のくす玉等、手作りのものを持ってきて下さったりと交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	併設ホームの評価、改善の指摘を受けて、すぐに自己評価への全員での取り組みを実践した。評価項目を職員全員で目を通し、気づきを挙げて、管理者と計画作成担当者でまとめた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は開催されていなかったが、今後2ヶ月に1回を目標に開催の準備に入っており、第1回を本年2月末に予定している。会議参加メンバーを家族、地域、行政の代表に依頼し、現在開催時間等調整中である。		

グループホーム ピア・ホーム「そよ風」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	関連施設の精神障害者自立生活棟があり、社会福祉協議会内の生活支援センターとは密に報告、連絡等を行っている。あわせて、希望される方には広く見学を受け入れており、見学者と行政の橋渡しの役割を管理者は努めて行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	諸般の事情により中断されていたホーム便りを改善点への取り組みとして復活し、3月の発行に向け現在準備中である。家族へ日常の様子を伝え、喜んで頂けるよう活動報告、スタッフ紹介、個別の報告欄を設け、3ヶ月に1回季刊紙の発行を予定している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情の受付体制を明確に記載している。家族訪問時には意見、要望等を常に伺うよう、管理者並びに職員は配慮している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設のホームとの異動は必要に応じて職員の希望等にも配慮しながら行なっている。異動は入居者にも伝えていますが、2つのホーム合同の週1回のレクリエーション等で職員とは顔馴染みであり、ダメージは少なく、スムーズに行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部においては、月1回のスタッフ会議を3時間かけて入念に行なう中で、入居者の事例報告の中でのケアに関する勉強や、外部研修の報告等の学びの時間を設けている。外部研修も調整を図りながら、出来る限り参加するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市の連絡協議会に加入し活発に活動している。2ヶ月に1回の会合にて情報交換を行い、また職員による自主運営の会議が別に立ち上げられ、運営者、管理者が講師という形で協力しての勉強会を行なっている。昨秋には他事業所と1名、一日交換研修を初めて実施する等、交流を通じた向上への取り組みに意欲的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>常にオープンに見学を受け入れており、入居に際しては家庭訪問等も行い、本人、家族からの情報収集を行っている。入居後も玄関は、常に自由に出入りして頂き、散歩してホーム、地域に馴染んで頂くようにしており、その際はさりげなく見守り、常に傍らで配慮を欠かさない支援に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者を人生の先輩として日常の支援において学ばず姿勢を忘れないようにしている。職員の支援に対する入居者の感謝の言葉に、「必要として下さっている」という、それ以上の感謝の気持ちを持って日々接している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式により、入居者の「その人像」を入居時に本人、家族の聞き取りにより作成し、その後も気づきを取り入れており、日常の支援に活かす努力を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に本人、家族の意向をもとに計画作成担当者が暫定プランを立て、一ヶ月の実施後、担当職員と計画作成担当者が話し合い、プランを決定している。又、家族の面会時等の機会に話を伺い、意見を取り入れるよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しの期間は3ヶ月としている。1ヶ月毎にモニタリングシートに記入し情報収集を行い、毎月15日に行なうスタッフ会議にてチェックし、変化があれば担当職員と計画作成担当者が話し合い、期間を待たず現状に即したプランの変更をしている。</p>		

グループホーム ピア・ホーム「そよ風」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援、家族の宿泊対応等、柔軟な支援を実施している。週に1回、レクリエーション協会のインストラクターに来て頂き、楽しい時間を過ごしており、入居者からも喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行なっている。受診結果報告は状況に応じて、電話、面会時に家族に行なっている。提携医の往診も週1回なされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、本人、家族に意向を尋ね確認している。昨秋看取りの事例があったが、家族の協力と病院との連携を密に行い、管理者もホームのすぐ近くで24時間対応が可能という状況をもって、希望に沿った看取りの支援を行なう事が出来た。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けに配慮しており、他の人にも聞こえる大きな声で話し掛けたりすることはないよう、1対1での対話、対応をもって入居者への配慮を欠かす事がない事を、スタッフは常に念頭に置くようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の大まかな流れはあるが、入居者の生活の中での自由、希望、要求が、おざなりにならないよう、介護業務優先になる事がないように心がけながら、職員は日々柔軟な支援に努めている。		

グループホーム ピア・ホーム「そよ風」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭き、ランチョンマット並べ、可能な方は下膳と、食前の準備、後片付けを入居者は手伝われている。下拵えは、野菜の皮むき等手伝って頂き、生活暦を活かして得意な方に魚を捌いてもらうといった場面もある。食事は楽しみの場として職員も会話を交え、共に頂き、行事食を取り入れ、誕生日には手作りのケーキを作るなどの心配りがなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきとしているが、状況、希望に沿い対応している。入浴しない場合も、清拭と下着の取替えを勧め、清潔保持と生活習慣に対する意識付けを促す支援がなされている。清掃がよくされた浴室は、ゆったりと広く、気の合う入居者同士と一緒に入浴する寛ぎの場ともなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中でモップかけ、居室の掃除機かけ、洗濯物干しや畳む事など、入居者は役割を担い、生き生きと日々を過ごせるよう支援を行なっている。おしゃべりや花札等のゲームに興じたり、週1回は全員で書道に取り組む時間もある。夏のバーベキュー、敬老会、クリスマス会は家族も共に、ホームの広い空間を活用し、楽しい時間を過ごし喜ばれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の併設ホームへ出かけられたり、広い敷地内を日光浴を兼ね、散歩されたりしている。又、ホームの食材、備品の買出し日には職員が入居者へ声かけをして募り、出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけていない。併設の施設に出かけられる入居者もあり、外に出る場合も職員がさりげなく見守りを欠かさないとした安全対策もとっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合訓練は年1回、自主訓練として、スタッフ会議で職員が揃う機会に、夜間想定での避難訓練を年3回行っている。地域消防団とも連携を図り、別に消防訓練を実施している。		火災に対する備えは現在なされているが、地震等の災害に対する対応マニュアル作り、訓練への取り組みが望まれる。災害訓練の実施後、記録を残しておく事で気づき、反省がなされ訓練がより有意義になる事を踏まえての取り組みも望まれる。更に万全を期す為の備品、非常用食料の備蓄、持ち出し品の確認の検討、再考にも期待したい。

グループホーム ピア・ホーム「そよ風」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立はスタッフで考えている。肥満予防の為にカロリー摂取に配慮する他、病後の入居者には主治医の指導を仰ぎ、食物アレルギーのある方にはメニューの食材を差し替える等の支援に努めている。水分摂取は一日1,000cc以上を目処に3食時、3回のお茶の時間、入浴後とこまめに摂っていただくよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ってすぐのリビングから、そのままひと繋がりになったような廊下もたらず広々としたスペースは、家族や併設された事業所との集まりに有効に活用されている。日常の車椅子での移動も、十分なゆとりをもって可能であり、広さに配慮された管理者の思いが当初の設計からあった。入居者と共に職員も同様に、並んで貼られた誕生日を記されたカードが家族的な温かさをもたらしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室、洋室とあり、洋室にはベッド、洗面台が備えてある。共に明るい日差しが差し込む部屋で、管理者自ら吟味された使い勝手の良いクローゼットが置かれている。壁紙をひと部屋毎に変える等の配慮も行き届き、それぞれの持ち込みの家具、調度品、趣味に関するものも多く、その人らしい居心地の良さを感じられる支援がなされている。		